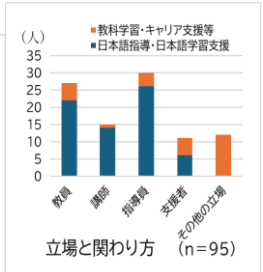
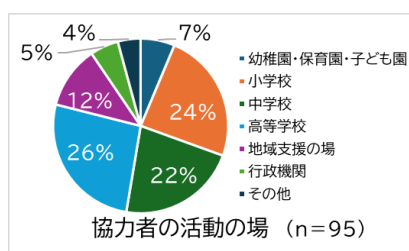
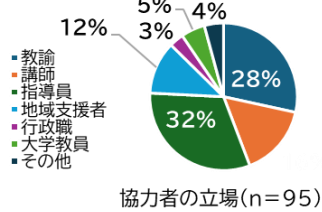


異文化間教育学会 第46回大会 2025年6月21-22日(於:東京大学)
文化的言語的マイノリティの子どもたちの心身の健康に関する関係者の認識
 ~質問紙調査の結果から~

○齋藤ひろみ・原瑞穂・見世千賀子・小西円・谷啓子(東京学芸大学)・河野俊之(横浜国立大学)・市瀬智紀(宮城教育大学)

<協力者>



<目的>

文化間移動をする子どもの心身の健康と生活・文化適応、学習の成否との関係…事例・経験的知見としての語り/異文化適応・外国人児童生徒教育、日本語教育等の研究文脈では付随する問題として位置付け → **日々接している日本語指導等の教育に当たる教員・支援者はマイノリティの児童生徒の心身の健康状態をどう認識しているのか？** 質問紙調査で明らかにする。

<先行研究> (学校保健研究等)

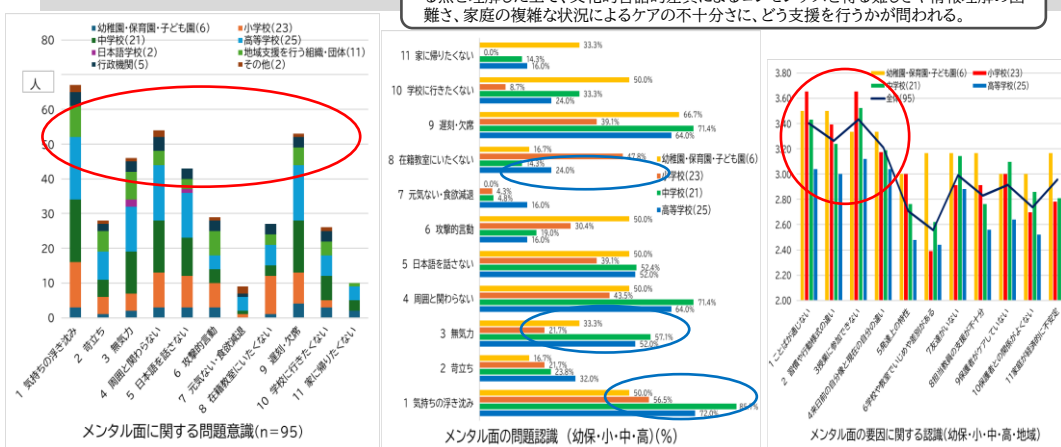
- ・学校への適応感の低さ、親と過ごす時間の少なさ、親の自分に対する不理解が意欲喪失や抑うつ気分等のストレス症状に関連(朝倉2005)…**児童への質問紙調査**
- ・養護教諭の課題は学級や友人との関係づくり、文化の違いから来る学校生活上の支障、養護教諭の特別な支援の必要性に対する課題意識の低さ、理解の困難さ(竹鼻2023)…**養護教諭へのインタビュー**
- ・健康支援の体制整備が課題、養護教諭が言語教育等の関係者と連携した支援展開が必要(中下他2021)…**養護教諭へのインタビュー**

※文献情報は抄録を参照のこと

<結果> (1) 身体健康面の課題



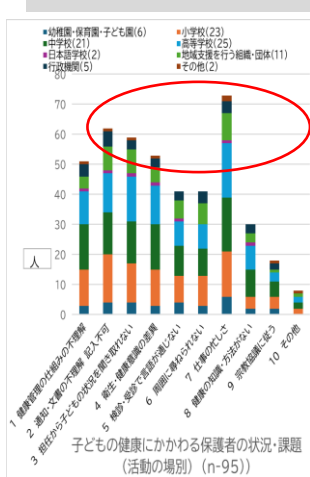
(2) メンタル面の課題



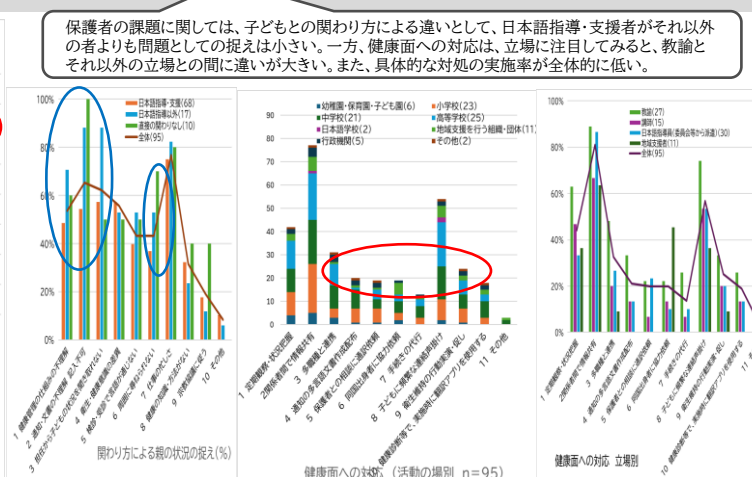
<調査方法>

外国人児童生徒等教育・日本語教育関係のシンポジウムにおいて、参加者を対象にオンラインにより質問紙調査を実施
選択肢質問
 ・外国人児童生徒等の身体的健康面の問題とその要因
 ・メンタル面の問題とその要因
 ・健康問題に関する保護者の問題
 ・行っている健康支援
自由記述 ・具体的なエピソード

(3) 保護者の課題の捉え



(4) 健康面への対応



<まとめ>

日本語指導等で接している教員等は、日々の指導・支援を通じて健康面の変化・予兆を具体的に捉えており、年齢的な発達の違いによる課題も浮かび上がった。ただし、立場の違い・関わり方により、要因の認識や対処方法には差異が見られる。他の専門領域との連携を含む組織的対応を行うには、かれらが起点となって仕組みや認識形成を推進することが肝要である。

例3) 中学2年生女子生徒: ストレスから過食。養護教諭より体重増加が指摘される。膝痛で体育の持久走に参加しなくなる。体育科教員から「歩いてよし」と確認を得て伝達。少し体重が落ち、周囲の応援を受け笑顔も。(日本語指導担当教員)
 例4) 中学生・東南アジア出身生徒: 冬の寒さを知らず、適した衣類を持っていない。日本語教室で家庭科の授業を行った。季節に合った服装、重ね着による体温調節等を学習。洗濯や入浴等の衛生面の指導も行う。寒さにも対応できるように。(教諭)

(5) エピソード (43回答で67エピソード) 身体面の健康とメンタル面の複合的なエピソードが半数を占め、家族関係・家族の経済状況にかかわる内容が多数みられる。

例1) 小学5年生女子児童: 母子家庭。保護者が夜勤のため夜から翌朝まで家で一人で過ごす。ゲームによる寝不足、不規則な生活・食生活。勉強に身が入らない。学校を通して専門家につながり、児童の様子が深刻ではないということで、介入できず。母親は「仕事を変えられない。カメラで見ているから大丈夫」との回答。(日本語指導員)
 例2) 小学1年生男子児童: 小学校入学前にMRワクチンの無料接種券が自宅に届くも接種せず。無料期間を過ぎたところ支援団体に相談あり。行政からは、自己負担、自分で病院の予約が必要との回答。病院ではワクチンの在庫不足で予約とれず、未だ接種できず。(地域支援者)